

## 平成25年度事業計画

### <公益財団法人への移行後の電通育英会の事業目的の確認（定款第3条より）>

公益財団法人電通育英会は、優秀でありながら経済的な理由により修学が困難な、日本国内で学ぶ大学生・大学院生に対する奨学金の貸与・給付及び留学生に対する奨学金の給付を行うとともに、育英に関する調査研究・情報提供、大学生等を対象とした人材育成活動に対する助成事業を行い、もって社会を牽引する人材を育成することを目的とする。

### <平成25年度事業計画について>

昨年末以来の円安基調により、当財団の平成25年度収益見込み額が前年よりも約3,700万円増加しています。今後も引き続きこのような収益が見込める場合は、事業の拡充を具体的に検討すべきではありますが、この円安傾向がいつまで続くのか、専門家の間でも意見の分かれるところです。

25年度事業計画に関しては、事業拡充策の導入は見合わせます。金融市場の動向を見守るとともに、将来に向けての事業拡充の検討を行うこととします。

- \* 当財団は、昭和38年（1963年）3月18日に設立されました。平成25年（2013年）3月に設立50周年を迎えました。平成25年5月25日（土）に、奨学生全員が一堂に会する「財団設立50周年記念奨学生の集い」を東京で開催します。内容は、講演会と交流会で構成します。交流会には、理事・監事・評議員をはじめ、顧問、選考委員、資産運用委員、大学の教職員、奨学生OBなどご来賓各位もご招待して、現役奨学生とともに財団設立50周年を祝うことを計画しています。

## 報告

事業の拡充に関しては、以下のような拡充策を検討中です。

### 1) 内容を充実する方向

	内容	予算規模
<b>入学一時金の 新設</b>	学部奨学生を対象に、採用した奨学生全員に「入学一時金」を支給。 大学進学時の入学金納入などの一時的な経済的負担への対応。	一律 20～30 万円 →年間 1,200 万 ～1800 万円
<b>留学奨励金の 新設</b>	学部奨学生を対象に、2 ヶ月以上の海外留学を希望する者に、「留学奨励金」を支給。 学部生のキャリア形成支援の一環。	@20～30 万円 →年間 600 万円 ～900 万円

### 2) 規模を拡大する方向

内容	予算規模
<b>学部奨学生の採用数を増やす。</b> *現状は、一般枠 50 名程度、芸術枠 10 名以内 (計 60 名程度)	毎年の採用数を 10 名増やすと 4 年後以降 年間 2,800 万円 *@70 万円
<b>資金助成事業の採択数を増やす。</b> *現状は、首都圏のみ 100 万円コース、 50 万円コース 各 5 件	2 倍に増やすと、年間 750 万円
<b>大学院奨学金制度</b>	制度変更の直後なので、 このまま継続する。

以上の内容につきましては、本年 11 月 22 日に予定されている理事会で、26 年度の事業拡充の方針について、理事会としてのご意見を伺う予定です。

理事会としてのお考えを参考に 26 年度事業計画を策定し、来年 3 月の予算理事会にてご審議いただこうと考えております。

## 1-1. 大学生への奨学金支給事業 <公益事業1>

### (1) 大学生への奨学金貸与

平成 22 年度から貸与奨学生の募集・採用を中止したため、貸与奨学生については、25 年度から、医薬系大学生だけとなり、5・6 年生合わせて 25 名となります。

在学中の貸与奨学生全員が受給期間満了するまでは、奨学金貸与事業を継続します。

\*貸与奨学生を対象とした返還免除奨学金事業及び留学奨励金事業も継続します。

25年度予算：	(奨学金貸与)	12,000,000円	@48万円×25名
	(24年度予算)	35,520,000円	@48万円×74名

### (2) <一般>大学生への奨学金給付 (高校時予約採用)

平成 25 年度の大学進学予定者に対して、奨学金給付の募集を平成 24 年 6 月に行ない、平成 24 年 7 月の選考委員会で 52 名が内定しました。前年度の一浪生 7 名も含めた 59 名の内定者のうち、平成 25 年 4 月に当財団指定の大学に入学した者に対し、奨学金を給付します。

この結果、給付者総数は、21 年度 50 名、22 年度 88 名、23 年度 143 名、24 年度 190 名と推移し、25 年度には 201 名 (想定) となります。

また、平成 25 年度も下記の通り募集・予約選考作業を行います。

①給付対象：当財団が指定する公立高等学校の 3 年生で、在学学校長の推薦がある者。成績優秀者かつ学費の援助が必要と認められる者で、当財団指定大学への入学を条件とする。理工学系、医薬系を除く。

②給付金額：月額 50,000 円、期間は大学在学中の最長 4 年間。

③予約採用者数：年間 50 名前後。

④採用方法：奨学金給付者は、主要国立大学進学者数ランキング上位の公立高校 (全国約 125 校) より各 1 名推薦された候補者の中から、選考委員会での書類選考後、選考委員による面接選考を経て理事長が決定する。

⑤初年度指定大学不合格の場合、次年度の再受験を認める。(所謂「一浪」まで可)。

25年度予算：	(一般大学生給付奨学金)	120,600,000円	@60万円×201名
	(24年度予算)	120,000,000円	@60万円×200名

### (3) <芸術系>大学生への奨学金給付(高校時予約採用)

当財団の特色を出すための制度で、平成 23 年度入学から奨学金支給を開始しました。平成 25 年度の芸術系大学・学部入学者に対して、奨学金を給付します。25 年度の採用は前年度一浪組みも含めて 13 名を想定します。給付者総数は、23 年度 5 名、24 年度 10 名、25 年度 23 名(想定)となります。

また、平成 25 年度も下記の通り募集・予約選考作業を行います。

- ①給付対象：当財団が指定する公立高校の 3 年生で、在学学校長の推薦がある者。成績優秀かつ学費の援助が必要と認められる者で、当財団指定の芸術系の大学・学部への入学を条件とする。
- ②給付金額：月額 50,000 円、期間は大学在学中の最長 4 年間。
- ③予約採用者数：年間 10 名を限度とする。
- ④採用方法：「(2) 一般大学生 への奨学金給付」と同様。
- ⑤初年度指定大学不合格の場合は次年度の再受験を認める。(所謂「一浪」まで可)。

25年度予算：	(芸術系大学生給付奨学金)	13,800,000 円	@60 万円×23 名
	(24年度予算)	6,000,000 円	@60 万円×10 名

### (4) <震災支援枠>の大学生への奨学金給付(高校時予約採用)

平成 23 年 3 月 11 日の東日本大震災で被災した者を対象とした奨学金制度です。平成 25 年度の大学進学予定者に対して、入学一時金と奨学金を給付します。25 年度の採用は前年度の一浪 1 名を含めて 4 名を想定します。給付者総数は、24 年度 3 名、25 年度 7 名(想定)となります。

また、平成 25 年度も下記の通り募集・予約選考作業を行います。

- ①給付対象：当財団が指定する公立高校の 3 年生で、東日本大震災で被災した者。成績優秀かつ学費の援助が必要と認められる者で、当財団指定の大学への入学を条件とする。
- ②給付金額：入学一時金 300,000 円のほか、月額 50,000 円、期間は最長 4 年間。
- ③予約採用者数：年間 15 名以内とする。
- ④採用方法：「(2) 一般大学生 への奨学金給付」と同様。
- ⑤初年度指定大学不合格の場合は次年度の再受験を認める。(所謂「一浪」まで可)。

25年度予算：	(震災支援枠奨学金)	5,400,000 円	@90 万円×4 名 + @60 万円×3 名
	(24年度予算)	3,600,000 円	@90 万円×4 名

\* ただし、前頁の＜震災支援枠＞の奨学金等は、平成23年6月の理事会で決議された「特定費用準備資金」からの支出です。平成24年度から26年度までの3年間、各年15名の採用を予定していましたが、応募数が2年連続で想定よりも大幅に少なくなっておりまして、25年度の実績も過去2年と同レベルと仮定すると、35名前後を採用できる資金が残ります。上記の「特定費用準備資金」は、平成23年東日本大震災の被災者に対する支援を限定目的としたものですので、他の公益目的事業に残金を振り向けることはできません。平成27年度以降の被災者支援を目的とした奨学金の企画については、来年3月の予算理事会にてご審議いただきます。

#### (5) 留学奨励金の給付

平成 22 年度から貸与奨学生の募集・採用を中止した関係で、25 年度の貸与奨学生は、医薬系の 5 年生・6 年生が 25 名残るだけとなりますので、平成 25 年度には、留学奨励金への応募者はいないことが想定されます。

25 年度予算：	(留学奨励金)	—
	(24 年度予算)	—

#### (6) 成績優秀による奨学金返還免除

平成 26 年 3 月卒業予定の貸与奨学生の中から、成績優秀者およびその他スポーツ・文化領域等において顕著な成績を収めた者を選び、奨学金の返還免除の特典を与えます。

- ①給付対象：卒業予定の貸与奨学生で成績優秀者等
- ②免除金額：貸与した奨学金全額（卒業時に返還免除）
- ③採用者数：3名程度 \*卒業予定者は15名
- ④採用方法：成績優秀による奨学金返還免除者は、選考委員会で書類審査をした後、選考委員による面接を経て理事長が決定する。

25年度予算：	(返還免除費用)	8,640,000円
	(24年度予算)	22,000,000円

## 1-2 大学院生への奨学金給付事業 <公益事業1>

平成 25 年度から、大学院奨学生の対象を大学給付奨学生に限定する制度に変更しました。

ただし、24 年度に採用した大学院奨学生（24 名）に対する奨学金給付は、修士課程修了（平成 25 年度）まで続行します。

### (1) 大学院生（学部予約）への奨学金給付

平成 25 年度の大学院進学予定者に対して、奨学金給付の募集を平成 24 年度に行ない、選考委員会で 8 名を採用内定としました。このうち、平成 25 年 4 月に当財団指定の大学院に入学した者に対し、大学院修士課程 2 年間、月額 8 万円の奨学金を給付します。給付者総数は、平成 24 年度採用者と合わせて 32 名となります。

また、平成 26 年度の大学院進学予定者について、下記の通り募集・選考を行います。

- ①給付対象： ・当財団の大学給付奨学生であること  
・キャリア形成上、修士課程への進学に必然性が認められる者  
・成績優秀で、かつ学費の援助が必要と認められる者
- ②給付金額・期間： 月額 80,000 円、給付期間は 2 年以内とする
- ③予約採用者数： 10 名以内

25年度予算：	(大学院生奨学金)	30,720,000円	@96万円×32名
	(24年度予算)	47,040,000円	@96万円×49名

## (2) 大学院留学生（現地採用）への奨学金給付

平成 22 年度から現地採用方式に切り替えました。中国については、中国教育部の協力を得て『中国建設高水準大学国家派遣留学生事業』の採用者の中から、韓国については、ソウル大学校及び延世大学校と締結した協約に基づき、当財団の応募条件に合致する博士課程/修士課程留学予定者の中から、推薦を受けます。選考委員会を経て理事長が決定します。

ただし、韓国の 2 大学からの応募は、過去 3 年間ソウル大学からの 1 名のみでした。従って、25 年度の採用については、中国からの 5 名の応募だけを想定し、留学奨学生数は 17 名を予定します。

また、平成 25 年度も下記の通り選考作業を行います。

- ①給付対象 : ・日本国内の主要大学院（修士・博士課程）に留学する者  
・原則として社会・人文科学を専攻する者  
・日本語によるコミュニケーションに支障のない者

②給付金額・期間 : 月額 160,000 円、給付期間は 3 年以内とする

③想定採用人員 : 5 名以内（中国人留学生 5 名、韓国人留学生は 0 名を想定）

④採用時期 : 中国・韓国とも、毎年度 4 月ないし 10 月からの採用。

\* 25 年 4 月採用 1 名は 24 年度の予約採用分で、25 年度の採用は 5 名とも 10 月採用と想定

25年度予算 : (留学生奨学金) 26,880,000円 @192万円×11名+@96万円×6名  
(24年度予算) 24,000,000円 @192万円×9名+@96万円×7名

<参考>今後3年間の奨学生数の推移（想定）

	平成25年度	平成26年度	平成27年度
大学貸与奨学生	<b>継続</b> 医薬系5年6年生 25名	<b>最終年</b> 医薬系6年生 10名	
大学貸与奨学生対象の 返還免除	<b>縮小継続</b> 卒業予定 15名 →3名	<b>最終年</b> 卒業予定 10名 →若干名	
大学給付奨学生（一般） 〈高校予約〉	<b>5年目</b> 1年生～4年生 201名	<b>6年目</b> 1年生～4年生 約200名	<b>7年目</b> 1年生～4年生 約200名
大学給付奨学生（芸術） 〈高校予約〉	<b>3年目</b> 1年生～3年生 23名	<b>4年目</b> 1年生～4年生 33名	<b>5年目</b> 1年生～4年生 38名
大学給付奨学生（震災支援） 〈高校予約〉	<b>2年目</b> 1年生と2年生 7名	<b>3年目</b> 1年生～3年生 22名	<b>4年目</b> 2年生～4年生 22名
大学院給付奨学生 （学部予約）	<b>8年目（最終）</b> 2年生のみ 24名		
大学院給付奨学生 （学部給付奨学生対象）	<b>1年目</b> 1年生のみ 8名	<b>2年目</b> 1年生と2年生 18名以内	<b>3年目</b> 1年生と2年生 20名以内
大学院給付留学奨学生 （現地予約） * 半期在籍者を含む	<b>4年目</b> 中国16名 韓国1名 計17名	<b>5年目</b> 中国15名 韓国1名 計16名	<b>6年目</b> 中国15名 韓国0名 計15名



## 2. 奨学生対象のセミナー等の実施 <公益事業1>

### (1) 大学奨学生（貸与及び給付）に対する「奨学生の集い」の実施

例年 11 月に東京と大阪で行っている「奨学生の集い」を、財団設立 50 周年を記念して、平成 25 年度は現役奨学生全員（約 300 名）が一堂に会して、5 月に東京で開催します。

講演：吉見俊哉氏（東京大学副学長／大学総合教育研究センター長）

開催日：5 月 25 日（土）

会場：電通ホール

25 年度予算： （奨学生の集い関連費用） 8,900,000 円 \*奨学生の交通費含む  
(24 年度予算) 6,310,000 円

### (2) 学部給付奨学生に対するセミナーの実施

学部給付奨学生の 1 年生から 3 年生に対して、研修セミナーへの出席を義務付けています。汎用的スキルの涵養や課題解決力の付与などを目的にグループ討議、プレゼン演習等を行い、次世代人材を育成する一助とします。9 月に 1 泊 2 日の合宿形態で実施します。

1 年生対象：ロジカルコミュニケーション研修

2 年生対象：課題解決力養成研修

3 年生対象：自己分析とキャリアデザイン研修

\* 4 年生については、3 月に開催する「修了生交流会」への全員参加をもって代替します。

25 年度予算： （大学生セミナー関連費） 8,520,000 円 \*奨学生の交通費含む  
(24 年度予算) 8,085,000 円

### (3) 大学院奨学生に対するセミナーの実施

大学院奨学生および大学院留学奨学生に対して、セミナーを 1 泊 2 日の合宿形態で実施します。内容は、奨学生の研究発表、各界講師による講演会、グループ討議、懇親会で構成します。24 年度の講師は、インターナショナルスクール・オブ・アジア軽井沢代表理事の小林りん氏でした。

25 年度予算： （大学院生セミナー関連費） 3,460,000 円 \*奨学生の交通費含む  
(24 年度予算) 3,700,000 円

#### (4) 修了生交流会

卒業予定の大学貸与奨学生のうち「成績優秀による返還免除者」及び大学院修了生に加えて、平成 24 年度から卒業予定の学部給付奨学生も対象としています。奨学生の修了・卒業後の各界での活躍を祈念して、当財団の選考委員など来賓出席のもと、「修了生交流会」を3月に東京で開催します。

なお、修了生有志によって編集された「研究報告集」を出席者に配布します。

25年度予算： (修了生交流会関連費) 5,000,000円 \*奨学生の交通費含む  
(24年度予算) 5,140,000円

<参考> 奨学金事業別の平成 25 年度予算額 (概算) 合計：2 億 3,692 万円

	学部給付	大学院給付	留学生給付	大学生貸与
奨学生数	231 名	32 名	17 名	25 名 *返還免除 3 名
奨学金支給額	1 億 3,860 万円	3,072 万円	2,688 万円	返還免除 864 万円
募集・採用関連	480 万円	37 万円	80 万円	24 万円
セミナー関連*1	853 万円	225 万円	120 万円	
奨学生の集い*2	671 万円	93 万円	50 万円	76 万円
修了生交流会*3	286 万円	177 万円	15 万円	22 万円
小計	1 億 6,150 万円	3,604 万円	2,953 万円	986 万円
	@70 万円	@113 万円	@174 万円	@39 万円

\*1~\*3 セミナー等の費用は、大学生と大学院生と留学生の参加想定人数で配分

### 3. 大学教育における人材育成に役立つ調査データ・情報の提供 <公益事業1>

#### (1) 機関誌「IKUEI NEWS」の発行（年4回）

平成24年度は、23年度に引き続きシリーズ特集テーマを「自分を育てる学生生活の過ごし方」とし、4月号「大学生とボランティア活動」、7月号「学生ベンチャーの可能性」、1月号「これからの海外留学」を特集しました。いずれのテーマについても、大学教職員やキャリア教育の研究者へのインタビューと大学生の意見や感想を取材しました。

10月号では、24年8月に京都大学・東京大学と共同開催した『大学生研究フォーラム』を特集しました。

25年度も、大学生のキャリア形成や大学生活を中心に、現場情報を大学生及び大学教職員に対し提供していきます。また「大学を訪ねて」、「先輩！こんにちは」、「アメリカン・キャンパス・ライフ」等の連載企画は継続する予定です。

なお、4月号は「学生への経済支援を考える」を特集テーマとし、財団設立50周年に因んだ企画も盛り込みます。

主要読者層は貸与/給付中の奨学生、奨学金返還中のOBOG、大学関係者（学長室及び学生部）、教育関係者、奨学財団、全国主要図書館、全国の新聞社であり、新たに大学・高校関係者等、配布先を増やしていきます。部数は、「大学生研究フォーラム」参加者等から毎年30名前後の定期送付希望者があるなど増加傾向で、24年度は各号約4,000部を見込みます。

25年度予算：	（機関誌関連費）	25,200,000円
	（24年度予算）	25,100,000円

#### (2) 調査研究

平成25年度は、京都大学（溝上研究室）との共同により、第3回大学生キャリア意識調査を実施します。平成19年、平成22年に続く、3年に1度の調査で、大学生活の実態及びキャリア意識等を時系列で把握することが目的です。調査結果は翌年以降の大学生研究フォーラムで報告する他、ホームページでデータを公開し、大学生研究者の幅広い活用を促進します。

また、平成24年4月に東京大学（中原研究室）と京都大学（溝上研究室）との共同で「トランジション研究調査」を実施しました。大学生活の過ごし方が企業に就職した後の仕事に取り組む意識および実態にどのような影響を与えるかを浮き彫りにしました。この知見をまとめた学術書『大学での経験、企業での活躍』（仮題）を12月頃、東大出版から刊行の予定です。

25年度予算：	（調査関連費）	8,080,000円
	（24年度予算）	8,080,000円

### (3) 第6回大学生研究フォーラムの開催

大学生キャリア意識調査の結果など大学生研究成果の情報発信の場として、また大学生研究の課題発見のための場として、毎年「大学生研究フォーラム」を開催してまいりました。23年度（第4回）からは、京都大学・高等教育研究開発推進センターに加えて東京大学・大学総合教育研究センターとの3者共催で、教育学・心理学・青年若者論等の教員、研究者及び高校教諭、学生を対象にシンポジウムの内容を充実させてきました。

平成25年度のフォーラムも、上記3者共同開催で、「学生のうちに経験させたいこと：大学生の今、変わる企業」というテーマのもと、前記「トランジション研究調査」から得られた知見の報告を踏まえてのパネルディスカッション、情報交換会で構成します。また、23年度から開催している「高校教諭のためのシンポジウム」も併催いたします。

フォーラムの報告内容や議論内容などは、IKUEI NEWS 10月号にて、特集します。同時にホームページにも掲載する予定です。

なお、25年度は財団設立50周年記念ということもあり、東京大学本郷キャンパス内の伊藤謝恩ホールに会場を移して開催します。初めての首都圏開催となります。

25年度予算：                   (フォーラム関連費) 8,150,000 円  
  (24年度予算)           7,850,000 円

#### 4. 大学生を対象とした人材育成に取り組んでいる非営利組織への資金助成 <公益事業2>

学生を対象とした人材育成を目的として、インターンシップ、ボランティア活動、その他セミナー活動などを行っている大学内組織や民間 NPO 団体を主な対象として、活動計画を広く募集し、有識者・専門家によって構成される選考委員会にて書類選考・面接選考を行った上で、平成 25 年度は、応募総数 40 件から選考された以下の 11 団体による人材育成活動に対して、資金助成をいたします。

##### <選考基準>

大学生等の人材育成効果に加えて①応募団体の過去の活動実績 ②活動の目的・有用性 ③実施計画の妥当性 ④計画遂行力 など、総合的に評価する。

#### <大学内組織、NPO による大学生等の人材育成活動（25 年度 採択）>

##### （助成金額 100 万円）5 件

- ・ NPO あそびっこネットワーク プレーパークでのプレーワーク研修
- ・ NPO コドモ・ワカモノまち ing ワカモノ感育学校～里守プロジェクト
- ・ 東京学芸大学環境教育研究センター 環境教育リーダー養成講座
- ・ 藤沢市市民活動推進連絡会 学生のボランティア情報提供とマッチング事業
- ・ 立教大学コミュニティ福祉学部 復興支援を通しての学生の人材育成

##### （助成金額 50 万円）6 件

- ・ NPO かものはしプロジェクト 学生対象の活動理解促進・対話型コミュニケーションイベント
- ・ NPO キズキ ひきこもり経験者への学習支援を通じた人材育成
- ・ 東日本復興支援団体 チーム次元 学生による気仙沼大島での復興支援事業
- ・ NPO 勉強レストランそうなんだ！ 知的障害者支援事業の企画運営を通じた人材育成
- ・ リカバリーキャラバン隊 精神障害者のリカバリー支援者養成事業
- ・ 早稲田大学 WAVOC 他社との出会いから育むグローバル人材育成

また、26 年度に向けて、下記の通り募集・選考作業を行います。

**募 集:** 25年10月に、若者対象の人材育成活動、キャリア支援活動を行う首都圏（東京・神奈川県・千葉・埼玉）の非営利組織に対して、募集要項を送付。同時にホームページにも募集要項を掲載。1 月中旬が応募締切。

**選 考:** 26年2月に、有識者、若者・キャリア・NPO の専門家5名で構成される選考委員会にて書類審査を行い、その後、活動計画のプレゼンを受けたのち非営利組織が取り組む人材育成活動に対して、100 万円コース 5 件程度、50 万円コース 5 件程度を採択する。

25年度予算： (人材育成活動助成事業関連費) 8,670,000 円  
(24年度予算) 10,420,000 円

平成 25 年度主要行事 年間日程 予定表

	日 程	場 所
財団設立 50 周年記念 奨学生の集い	5 月 25 日(土)	電通ホール
第 7 回理事会 (決算)	6 月 6 日(木)11:00~	帝国ホテル 蘭の間
第 3 回定時評議員会	6 月 25 日(火)10:30~	帝国ホテル 松の間
第 8 回理事会 (*)	6 月 25 日(火)14:30~	帝国ホテル 楓の間
大学院生 セミナー	8 月 10 日 (土)11 日(日)	クロスウエーブ幕張
大学生研究フォーラム	8 月 17 日 (土)	東京大学 伊藤謝恩ホール
(併催)高校教諭シンポジウム	8 月 18 日 (日)	東京大学 伊藤謝恩ホール
学部生 セミナー	9 月 21 日 (土)22 日(日)	湘南国際村研修センター
第 9 回理事会 (資産運用等)	11 月 22 日(金)11:00~	電通銀座ビル 8F会議室
第 10 回理事会 (予算)	3 月 27 日(木)10:30~	帝国ホテル
修了生交流会	3 月	品川ストリングスホテル(予定)

(\*) 第 8 回理事会は、改選理事の互選による理事長・専務理事の選出を主目的とした臨時理事会です。